

令和元年度 都市行政調査報告書

◇調査日時：令和元年 10 月 25 日（金） 9 時 00 分～18 時 30 分

◇調査議員：鈴木正孝

◇調査先：青森県八戸市 大字売市字輿遊下3
八戸市 長根屋内スケート場（Y S アリーナ八戸）

◇調査内容：長根屋内スケート場（Y S アリーナ八戸）について

- ・施設整備の概要
- ・スケート振興策の取り組みについて



◇調査の目的

帯広市は健康スポーツ都市宣言を行い、各種スポーツ施策に取り組んでいるが、そのなかでもここ十勝には、古くからスケート文化が地域に根付いており、数々のオリンピックメダリストを輩出するなど、スケート王国といわれている。

そうしたスケート文化の今を支えている明治北海道十勝オーバル（以下、明治オーバル）は、国内 2 か所目の屋内スケートリンクとして平成 21 年に誕生し、今年 10 年の節目を迎えた。

この間、明治オーバルは屋内というメリットを最大限生かし、中地を含め幅広く利用されており、市や指定管理者、地元競技団体などでは、スケート人口の増加を目指し底辺拡大の取り組みを行っているほか、先に整備された長野エムウェーブとともに国のナショナルトレーニングセンターに指定され、世界レベルの競技者育成も担っている。

こうした中、国内 3 か所目の屋内リンクとして八戸市長根屋内スケート場（Y S アリーナ八戸）が今年 9 月末にオープンしたことにより、国内におけるスケート環境が大きく変化することになった。

アスリート視点では練習環境が充実するなどの効果が見込まれるが、これまで帯広と長野で開催されてきた大会や合宿については、分散されることが予想される。

このため、Y S アリーナ八戸を視察・調査することにより、本市への影響等を考察し、今後のスケート振興策の参考とすることを目的とする。

◇調査の内容

【Y S アリーナ八戸の概要】

- ・延床面積：26,274 m²（明治オーバル（19,218 m²）の1.37倍）
- ・建物高：25.4m（明治オーバル（19.9m）の1.28倍）
- ・整備費：約126億円（明治オーバル（約60億円）の2.1倍）
- ・観客席：約3,000席（明治オーバル（約1,000席）の3倍）
- ・アリーナ：400mダブルトラック16m幅（明治オーバルは同規格15m幅）
- ・ランニング走路：リンク外周2レーン3.1m幅（明治オーバルは同規格3m幅）
- ・中地：人工芝コート/フットサル1面（明治オーバルはフットサル3面テニス6面）
多目的コート/バスケット2面
サブリンク1面

明治オーバルやエムウェーブを参考に後発の施設として整備されたY S アリーナ八戸は、126億円もの整備費を掛けただけに随所に優位性が見られる。

競技エリアは大きく変わらないが、観客席が明治オーバルの3倍ほど設けられ、視察時に開催されていた全日本スピードスケート距離別選手権大会では、ほぼ満席となるなど、収容能力を遺憾なく発揮していた。

また、2階にはカフェが併設されたホワイエ（ラウンジ）や3階の交流サロンが広々と配置されており、大会時のみならず日常的な市民の交流の場として活用できる。

このほか多数の会議室や多目的室が備わっており、普段使いとして市民利用のほか、大規模大会の際には選手控室、大会役員室、メディア控室などへの転用が可能となる。

大会開催時には、常設のカフェだけでは3,000人の観客の飲食をまかないきれないため、ホワイエに飲食販売ブースを設けて対応していた。観客はそれら飲食物を交流サロンなどで喫食していた。

また、中地には、明治オーバルにはない人工芝フットサルコートやバスケットコートがあるほか、サブリンクを初心者教室などに使えるという工夫がなされている。

八戸市は本市と同じくスケートが古くから盛んな地域であり、競技人口こそ十勝・帯広に比べ多くはないものの、全日本スピードスケート距離別選手権大会での観戦者は、3,000席がほぼ満席になるなど、人気のほどが伺える。

◇質疑

(質) 整備費について

(答) 整備費は約 126 億円で、国からの防災拠点施設としての補助金のほか、県からの補助金によって全額を賄った。

(質) 氷づくりについて

(答) 水道水をろ過した RO 水を、一次冷媒にアンモニア、二次冷媒に二酸化炭素を使った 10 台の冷凍機で氷をつくっている。この方式は、メーカーから省エネ性が高いといわれている。

(質) 大会等の予定について

(答) 全日本スピードスケート距離別選手権大会の後は、年明け 1 月から 2 月にかけて国体が行われる。その次には、ジャパンカップ第 4 戦が 2 月に行われ、同じ年の来シーズンのジャパンカップ第 2 戦 (11 月) の可能性がある。また、翌 2021 年は、2 月に世界ジュニア選手権の開催が決っている。

(質) 大会以外の使用予定について

(答) 氷を張る 7 月から 3 月までの期間を除き、コンサートやイベント会場としての利用を見込んでおり、最大 9 千人収容できる。現在のところ、コンサートについては問い合わせがあるものの確定した行事はなく、1,000 人以上の大規模なコンベンションについては 2 件の開催に向け調整中。

(質) 維持管理費について

(答) 年間の維持管理費として約 2 億円と想定しており、一方収入はイベントや使用料収入で約 1 億円を見込んでいる。

(質) 防災機能について

(答) 東日本大震災の際には、隣接する体育館が防災拠点施設として資材や物品、食料等の集積所となっていたが、今後はより規模の大きい Y S アリーナがその役割を担うことになる。一時避難所や活動拠点としても活用される。

◇所感

Y S アリーナ八戸は、長野エムウェーブや明治オーバルを参考にした後発の施設だけあって随所に優れた面がある。その一つが 3,000 人（立ち見を含めると 5,000 人）収容の観客席である。

視察時にちょうど開催していた全日本スピードスケート距離別選手権大会は、平昌オリンピックのメダリストをはじめ、国内一線級のトップ選手が出場する大会とあって、主催者発表として 3,300 人の入場者を数えた。

バックストレート側を除いた席配置であるが、十分な広さを確保しており、ワールドカップクラスの大会にも対応できるものと思われる。

また、2 階、3 階に配置されている広々としたホワイエ（ラウンジ）や交流サロンは、大会開催時はもとより、普段の市民利用を見込んでおり、軽食なども楽しめるカフェが併設されていることもあり、賑わいづくりに生かされるものと感じた。

このほか、選手控室や大会関係諸室は十分な数・広さが確保されており、普段は会議室としての利用も可能となっている。

Y S アリーナ八戸は、市内中心部から約 1 キロ、徒歩 10 分程の場所にあるため、徒歩圏内となっているほか、路線バスが 10 分間隔で走っていることや、600 台収容の駐車場を備えるなど、市民の利便性は高いものと思われる。

施設的にはいいことづくめであるが、大会記録を見る限り、あまり良いタイムが出ていないことから、氷は滑らない印象を受けた。

とはいえ、合宿などでは、本州の大学や高校の需要があると聞いており、確実に本市のライバルになることは間違いないものとする。

このため、明治オーバルの優位性（気候や周辺環境を含め）を地域挙げて見出し、外部に発信（アピール）する必要性を感じた。